

# 歴史探訪

## クラブ

其の  
179

History Inquiry Club



文化財課 ☎22-1720  
(博物館) FAX 22-2028

### 田原の原風景

#### 「昭和の写真の魅力」

現在、博物館では、企画展「田原の原風景〜古写真の魅力〜」を開催しています。古写真と聞くと、皆さんは明治や大正時代の写真を想像されるかもしれませんが、今回の展示では、多くの方々が実体験してきた



●田原・二七の市(昭和30年代前半) 田原市博物館蔵

昭和時代の懐かしい写真を数多く紹介しています。タイトルに「田原の」とありますが、渥美や赤羽根の写真もありますので、多くの方のご来館をお待ちしています。展覧会を企画するにあたって、あらためて昭和の写真を収集・調査・整理してみると、次のようなことに気付きました。それは、「昭和」はまさに激動という表現がふさわしい時代であったということです。日本における元号で最も長く使用された昭和。初期には大きな戦争そして敗戦を経験し、中期には敗戦からの復興、高度経済成長が進展し、後期には経済大国としての地位が国際的に確立されました。少々難しく昭和という時代を振り返りましたが、私たちの手元に残された写真からもそのことを感じ取ることができます。平成の時代となり、今でこそ写真は、誰でも気軽にデジカメやスマホで撮影、その場ですぐに見ることができそうですが、昭和の初期から中期にかけては、カメラ(写真機)自体が非常に高価で、庶民には手の届かない高嶺の花でした。よって、この頃の写真は、何か特別な事がある場合

に、写真館でカメラマンに撮影してもらおうといった記念写真(家族写真)的なものが多く、何気ない日常の一言や風景を写したものはあまりありません。あつたとしても特定の人に興味や仕事として撮影したものがほとんどでした。

また、高度経済成長が一段落した昭和の後期ともなると、さすがにカメラも徐々に家庭の中に普及し始めました。このころのカメラは、フィルムを入れて、撮影後にそのフィルムを現像してネガフィルムとし、そのネガから印画紙に焼き付けなければ撮影した画像が大きく見られないという、とても手間(時間)とお金のかかるものでした。こうしたことから、カメラは持っていても以前と同じように趣味や仕事以外でわざわざ日常の風景などを撮ることはされず、子どもの成長や旅先での思い出などを記録することに使われていた

●赤羽根漁港堤防から吹出橋を望む(昭和40年代前半) 田原市博物館蔵



●渥美町役場前での交通安全パレード(昭和40年代前半) 個人蔵



のです。

こうした理由から、地元の移りゆく景観は、そこに暮らす人々には当たり前だからこそ、あえて写真に撮って残そうとする人が少なく、私たちの知らないうちに記憶から消えていくということになってしまいます。ここに紹介した写真も現在では、見ることでできなかつたり、景色が変化したりしたもののばかりですが、そこに写りこんださまざまな情報が私たちに当時の様相を伝えてくれます。

「古写真の魅力」それは、私たちにとっての大切な原風景を思い出させてくれるものです。(天野)